

# 熊楠 works

2012年10月1日

No. 40

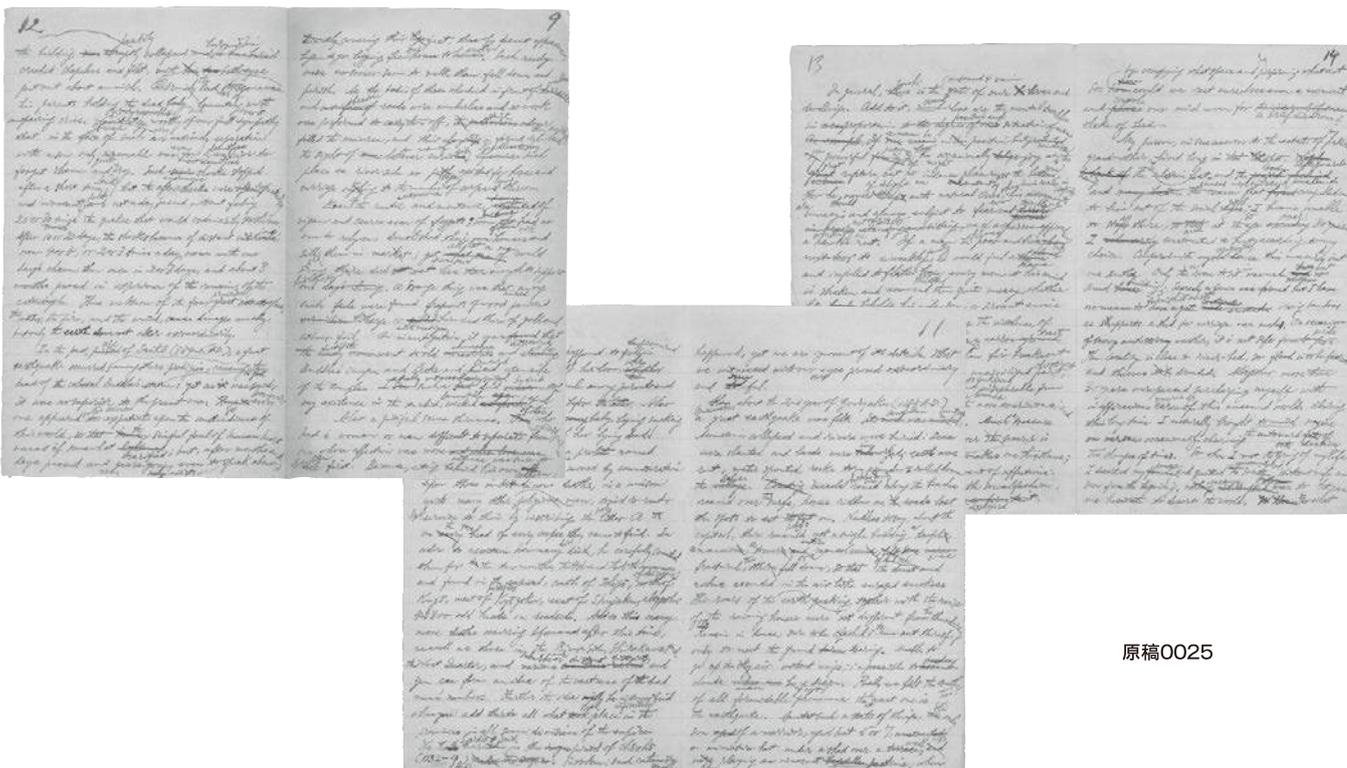
題字は熊楠自筆

■発行／南方熊楠顕彰会 〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913  
http://www.minakata.org/ 〈E-mail〉minakata@mb.aikis.or.jp

自筆資料に見る南方熊楠……………⑪

## 「方丈記」英訳草稿

文／千本英史（奈良女子大学教授）



原稿0025

西暦2012年の今年、鎌倉時代の歌人で出家した鴨長明(1155?~1216)が「方丈記」を執筆してちょうど800年となる節目の年にあたり、<sup>こきに</sup>「方丈記」の巻末には、「于時、建暦ノ二年、弥生ノ晦<sup>つこもり</sup>コロ、桑門ノ蓮胤、外山ノ庵ニシテ、コレヲ記ス」と書かれています。桑門は僧侶のこと、蓮胤は長明の出家後の名ですから、鎌倉時代1212年の3月29日頃(この年の3月は「小」の月でした)に、都の東南、宇治に近い日野の山中にある方丈の庵(つまりは今でいうおよそ四畳半の大きさの庵)で、「方丈記」は書き終えられたのでした。

失意のうちにロンドンから帰国し、那智山中の一隠花植物採集に日々を送っていた熊楠が、ロンドン大学事務総局局長の職を辞したばかりのフレデリック・V・ディキンズに協力する形で「方丈記」の英訳を始めたのは、1903年の6月のことでした。やがてこの翻訳は、両名の名前併記の形で「王立アジア協会会報」(1905年4月)に「12世紀の日本のソロー」と題して掲載され、また1907年にはこんどはディキンズの単独名で、ゴワーズ社からインターナショナルライブラリーの第15冊として、「方丈記：10フィート四方の小屋の記録」との題名で出版されることになるのですが、顕彰館には現存する経緯についてはよくわからないながら、熊楠がディキンズに送った24ページ分の訳稿のちょうど半分<sup>こま</sup>に相当する野線ノート紙使用のインク書き草稿が残されています(原稿0025)。

那智隠棲の日々、熊楠がどんな思いで「方丈記」の英訳を綴っていたのか…、今秋は月例展「南方熊楠とゆかりの人びと」の第17回として、この「方丈記英訳草稿」を中心に、フレデリック・V・ディキンズを取り上げます(10月6日~11月4日)。

ぜひご自身の目で「英訳原稿」をじっくりとご覧いただきたいと思ひます。

### CONTENTS

第22回南方熊楠賞 授賞式	… 2
南方熊楠賞受賞記念講演 森 浩一	… 3
第16回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 松居竜五	…10
第17回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 高 陽	…20
第17回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 倉谷うらら	…27
第18回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 郷間秀夫	…39
第18回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 岸本昌也	…45
「熊楠」生物覚え書⑩ 土永知子	…51
南方熊楠と同級生たち	…52
熊楠メモランダム《4》 櫻井想	…59
南方熊楠蔵書『本草図譜』、『十新考』と大沼宏平翁について(一) 郷間秀夫	…61
書簡の杜(七) 岸本昌也	…62
海辺のクマガス 第二回 安田忠典	…64
書評・書籍紹介 濱岸宏一	…66
平成24年度南方熊楠研究奨励事業 助成研究決定	…67